

中外新聞

外篇

八



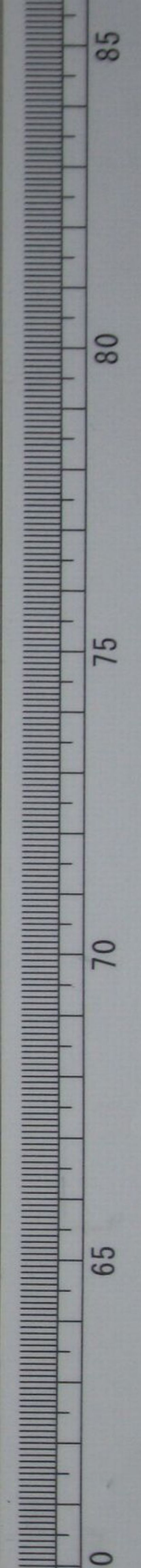
定價一匁

西垣文庫

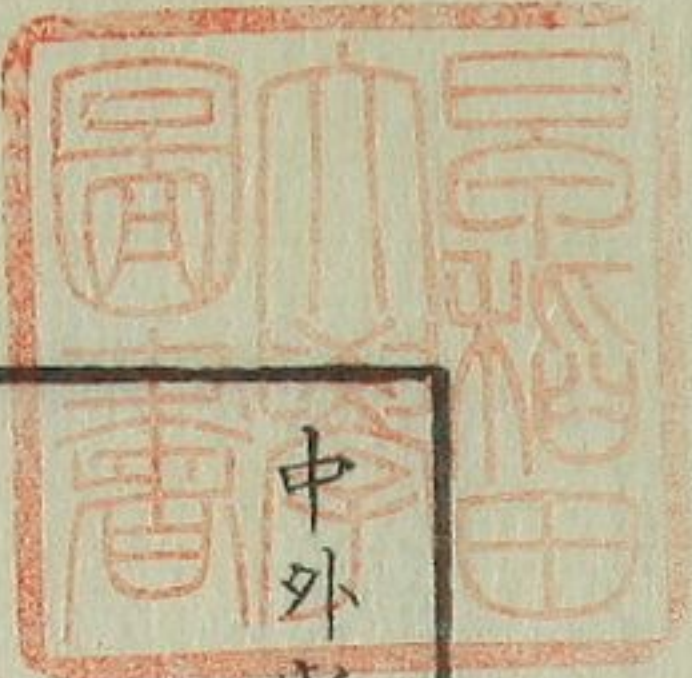
文庫 10

7328

8



特 文庫10
7328
8



中外新関外篇卷之八

慶應四年閏四月

○京師會盟の戎

上の議事所は於て
皇帝陛下臨御列侯會同、三職出座、衣冠如例、座配議事式の如
く、但下の参与の者末席より列座を
總裁職盟約書を捧げ、讀之御諱并に總裁列侯拜聴座より就
く、總裁職盟約書讀終り、議定諸侯一人中央より進み、名印を記
し、本紙を出し、列侯同く以
盟約の式終り、列侯退く、次日約書の写を以て天下より布告を

二卷之八



盟約

列侯會議を興し万機公論を決むべし
官民一途庶民に至る迄各其志を遂げて人心を以て倦まざらむを欲す

上下心を一として盛んは經論を行ふべし

知識を世界より求め大に皇基を振起すべし

徵士期限を以て賢才を讓るべし

右の条々公平簡易を基き朕列侯庶民協力唯我日本を保全するを要し以盟を主する事如斯背く所あり事勿し

年月日

御諱

總裁 名印

議定諸侯 同

列侯 同

○横濱新聞タイムス第百四十一号抄訳

第五月第八日及び第九日即我四月十六日及十七日の頃南方の兵テヨウシユウ、サツマ、トサ、トダ及びヒコ子子搦勢凡八百人程北方の兵アヒツ及びヒトクガワロウニシシより置きよる伏兵伏兵は落入りより其手續を北方の兵敵の進行する路傍路傍の斐畑斐畑に凡千五百人程埋伏埋伏して敵兵其処を通かりし時突然突然と起

とて劇しく発火したるあり故に南方の兵多く死傷して遁
る者僅に二十三人ありと云へり但此戦ひを江戸より北
の方より當るツクバ山の麓に於て起りしなりと
當時我が國に欠りて南方の軍大挙して後詰のしりも東
下はら由併し北方の兵に強ち江戸を取返さんとの企もあ
り如何ある故りや

我等新関の作屢々日本國平定の事を論を其法他あり慶喜
公を許して者自称 所門の政事密談所は推挙し會津の罪を全く
除く事なほなきあり然れども方今南方と北方との勢互
に相募りて既商議和熟する事ハ殆乎行届らざる程の形

状に成行きより日本人民の為に豈嘆ぜざらんや

○ 此度 朝廷の評議官に總裁、監督の兩職及び附属の役人よ
り組立らるるなり

第一の總裁は英國に於ける上席の「ミニスト」に當り其餘
の總裁といふは其局々の總裁にして即英國の外国或は海
陸軍等の掛「ミニスト」に當るものなり

副總裁は總裁の次席にして職務に至りては同格ありといふ
各局監督の格席に總裁より稍輕くして其職務ハ殆ど同ト
但し總裁ハ 帝の親族にして即官方あり蓋監督の稱ハ其

親族ありざるを以て區別せらるのみ
各局附屬の役人の則英國より「ゼオンドル」セケレタリ。オ
フスタートと唱ふるその當たり

後藤達三 訳

○或脱走兵隊の長より或藩へ告諭の文

是迄莫大の恩祿を賜り徳川氏衰微の今日に至り君命とを
中あらうし王家を捨 王臣と兵成一國又采地領国保有の術
を為し以て

皇国人倫の道よわいて有之る友所業畢竟天罰難遁以自今

志を改め在陣の家臣等何とも脱走しし諸事差罔又随ひ
徳川氏の為め奉公しし寛大の所置も可有之
得し獨後栄を計り躊躇しし以て於てと上
皇帝下ハ万民又對一人道いし不滅事を可令知以る理義
熟考明日正九時迄は確乎不拔の誓可なり同以事

辰四月 日

義軍府

○喻言一則

唐通居士録

は時鳥と獸との戦ひは蝙蝠いそり又獸と心を通ちけ
まの鳥のいそまけより鳥共打より今ハせん方ありと

ちげく折^あら驚^{おど}出来^いたりて之をまげま^ま我^わ此陣^{この}はらん
ほどのたのそく思^{おも}へといひて又幸^あひの陣^の陣^は押寄^おせお
たびの鳥のいくさ勝^かたりかくて和睦^わする時^{とき}かをほり
も二心^{ふた}ある者^{もの}ありして鳥^{とり}も獸^けも之をい^い中^{なか}に世^よの交^まわり
を許^{ゆる}さばらぬはさく白昼^ひ又^{また}出^いる事^{こと}をい^いま^ま鳥^{とり}の
ほぞきをまぎ取り^とれば今^{いま}を志^しぬうけのやぶれの柢^{たき}を
このを着^きて中^{なか}に日暮^ひ又^{また}志^しぬうけのやぶれの柢^{たき}を
ありその如^{ごと}く人も一時^{ひと}の利運^り又^{また}迷^まひて久^ひし中^{なか}を捨^すつる
時^{とき}の世^よの人^{ひと}もい^いま^ま果^はの身^みをそこあふも至^{いた}るべ
とぞ

○川路^せ光^{みつ}翁^{おきな}六^む竅^{けつ}鏡^{きやう}を以^もて自殺^じして死^しす其^{その}時^{とき}の詩^し歌^か

迷^ま懐^{わい}

い^いまかたり死^しうはり来^きていとふひも身^みを致^{いた}す君^{きみ}の由^{よし}
くわ^{くわ}
二^ふ荒^らや神^{かみ}もはをれとみそををつゆりあは身^みもつくを
真^まらる

平^{へい}卧^わ病^{びやう}林^{りん}既^{すで}四^し年^{ねん}中^{ちゆう}夙^{そく}衰^{すい}叟^{そう}日^{にち}潜^{ひそ}然^{ぜん}君^{きみ}恩^{おん}山^{さん}岳^{かく}毫^ご難^{なん}報^{ほう}徒^た致^{いた}茲^{こゝ}身^み
帰^{かへ}九^く天^{てん}
嗟^あ嘆^{たん}廟^{ぼう}謀^{ぼう}無^な可^か奈^な朝^あ昏^{こん}泣^な血^ち七^{しち}十^{じゅう}翁^{おきな}兒^こ孫^{そん}為^な國^{くに}以^も身^み殉^{じゆん}不^な愧^か汗^{あせ}青^{せい}
盡^{じん}寸^{すん}忠^{ちゆう}

川路頑民齋聖謨

○ 題志

相馬相馬胤秋

咲みほかむれりうえ野のまくらむれあふまて見るもや
とありき程

或云此人四月下旬野州にて戦死せりと如何ある人々や
詳は知らん只此歌或人の所持あるを写し留めぬ

